

# 2018年3月期 第2四半期決算説明

2017年12月11日

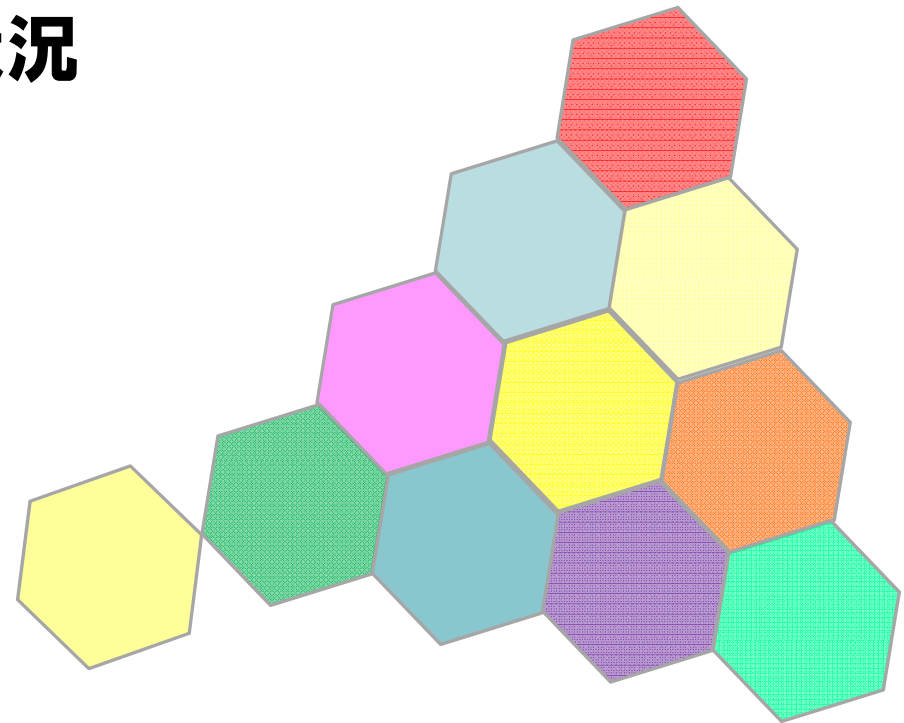
テクノホライゾン・ホールディングス株式会社

代表取締役社長 野村拡伸

# 目次

---

- I. テクノホライゾングループについて
- II. 2018年3月期 第2四半期決算概況
- III. 2018年3月期 通期業績予想
- IV. 事業構造改革の進捗状況



# I. テクノホライゾン（Technohorizon） グループについて

## テクノホライゾン・ホールディングス（会社概要）

社名 (英文名)	テクノホライゾン・ホールディングス株式会社 (TECHNO HORIZON HOLDINGS CO., LTD.)
設立年月日	2010年4月1日
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>傘下の事業会社の経営管理</li><li>子会社の事業内容は「光学事業」と「電子事業」</li></ul>
所在地	愛知県名古屋市南区千竈通二丁目13番地1
代表者	代表取締役社長 野村 拡伸
資本金	2,500百万円(2017年9月末現在)
グループ従業員総数	891名(2017年9月末現在連結ベース)

## テクノホライゾン・ホールディングス（設立経緯）

---

オプト・エレクトロニクス技術と強いマーケティング力  
をもってグローバルな事業展開を推進すべく  
JASDAQ上場2社が2010年に経営統合

### テクノホライゾン・ホールディングス

---

エルモ社

設立: 1933年5月8日

光学事業

電子事業

タイテック

設立: 1975年9月1日

中日諏訪オプト電子

設立: 2009年8月10日

## テクノホライゾン グループ経営理念

---

- ◆ **オプト・エレクトロニクス技術**  
を核にグローバルな『人と社会』に貢献する
- ◆ **知恵とアイデアと積極果敢さ**  
に溢れた事業展開を追求する
- ◆ 『**技術を活かすこと**』  
『**皆さまのお役に立つこと**』  
という姿勢を貫き、着実に前進する

## **II. 2018年3月期 第2四半期決算概況**

## 2018年3月期 第2四半期決算 ハイライト (1)

- 【 売上高 】 利益率重視の営業を行っており、売り上げは減少
- 【 営業利益 】 固定費の削減と利益率の改善により、大幅増益
- 【 経常利益 】 為替差益を57百万計上
- 【 四半期純利益 】 子会社の固定資産売却により198百万の特別損失  
土地評価に係る繰り延べ税金負債の取り崩しにより  
法人税等が93百万減少

グループ連結 (単位:百万円)	上半期 実績	前年同期 実績	前期増減
売上高	9,367	10,036	△6.7%
営業利益	473	103	356.9%
経常利益	518	△151	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	283	△293	—



## 2018年3月期 第2四半期決算 ハイライト (2)

### 【事業セグメント別】

#### 【光学事業】

- ・ 日・米・欧の教育市場向けに製品ラインナップを強化し、市場シェアの確保
- ・ 新興国市場での新たな販路拡大を推進
- ・ 光学ユニット事業は、付加価値が高いユニット販売が進み利益率が改善

事業別売上高 (単位:百万円)		上半期 実績	前年同期 実績	前期増減
光学事業	売上高	6,092	6,593	△7.6%
	営業利益	138	134	2.9%

注:事業セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費等を除外しております。

## 2017年3月期 第2四半期決算 ハイライト (3)

### 【事業セグメント別】

#### 【電子事業】

- ・ FA関連機器は、国内設備投資の回復と人手不足により販売が順調に推移
- ・ 中国市場においても、人件費上昇による省力化のニーズは強く、堅調に推移

事業別売上高 (単位:百万円)		上半期 実績	前年同期 実績	前期増減
電子事業	売上高	3,275	3,442	△4.9%
	営業利益	394	58	569.5%

注:事業セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費等を除外しております。

### **III. 2018年3月期 通期業績予想**

## 2018年3月期 通期業績予想

(単位:百万円)	上半期 実績	通期予想 (修正後)	通期予想 対比進捗
売上高	9,367	20,500	45.7%
営業利益	473	800	59.1%
経常利益	518	700	74.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	283	400	70.8%

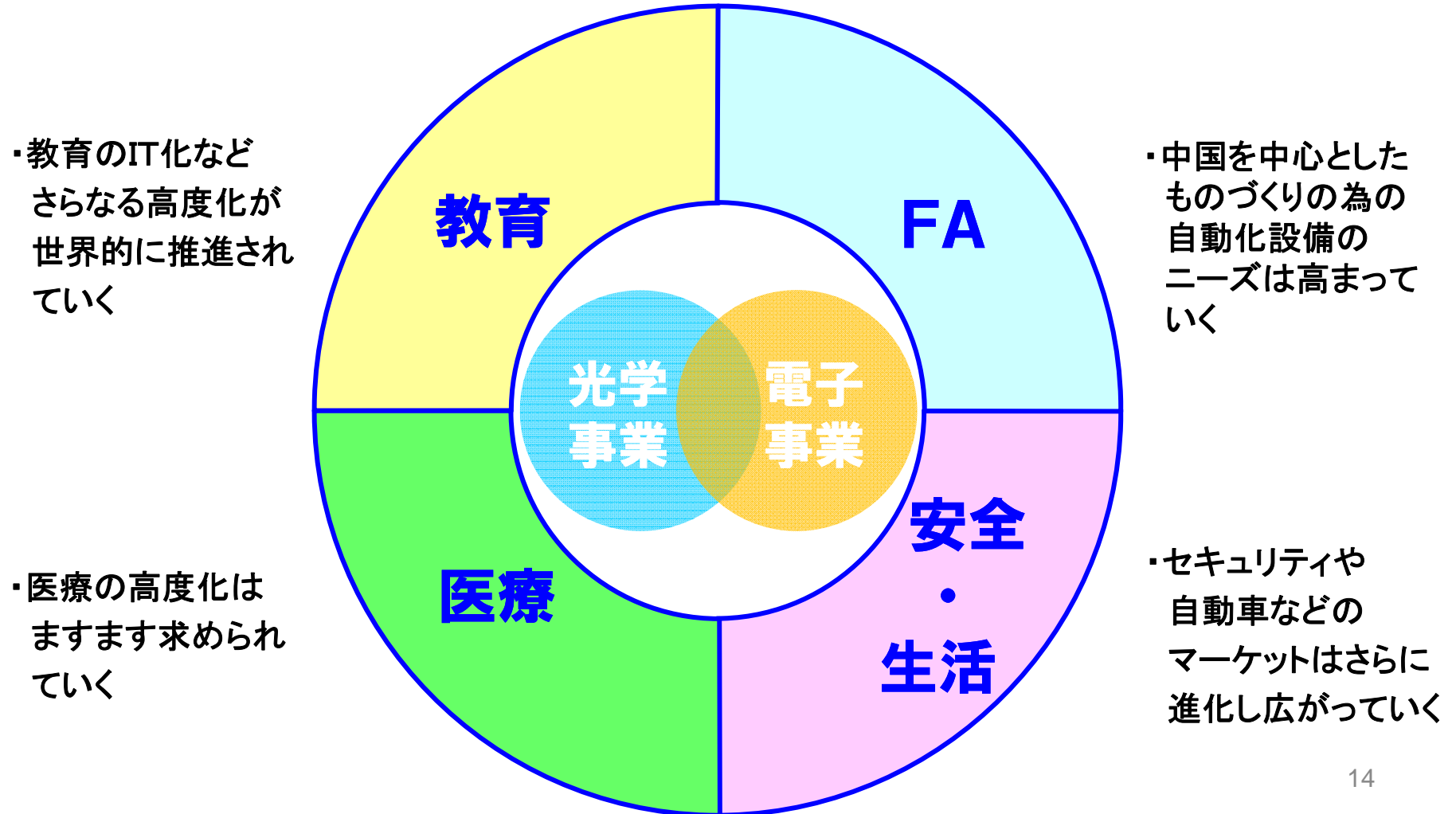
### 【通期業績予想の修正】

- ・売上高は、ほぼ想定通りで推移
- ・事業構造改革が進んでおり、利益を上方修正

## **IV. 事業構造改革の進捗状況**

# 成長戦略

- 今後成長が期待される4つの市場に向けて事業育成
- 光学・電子の技術を融合させていく

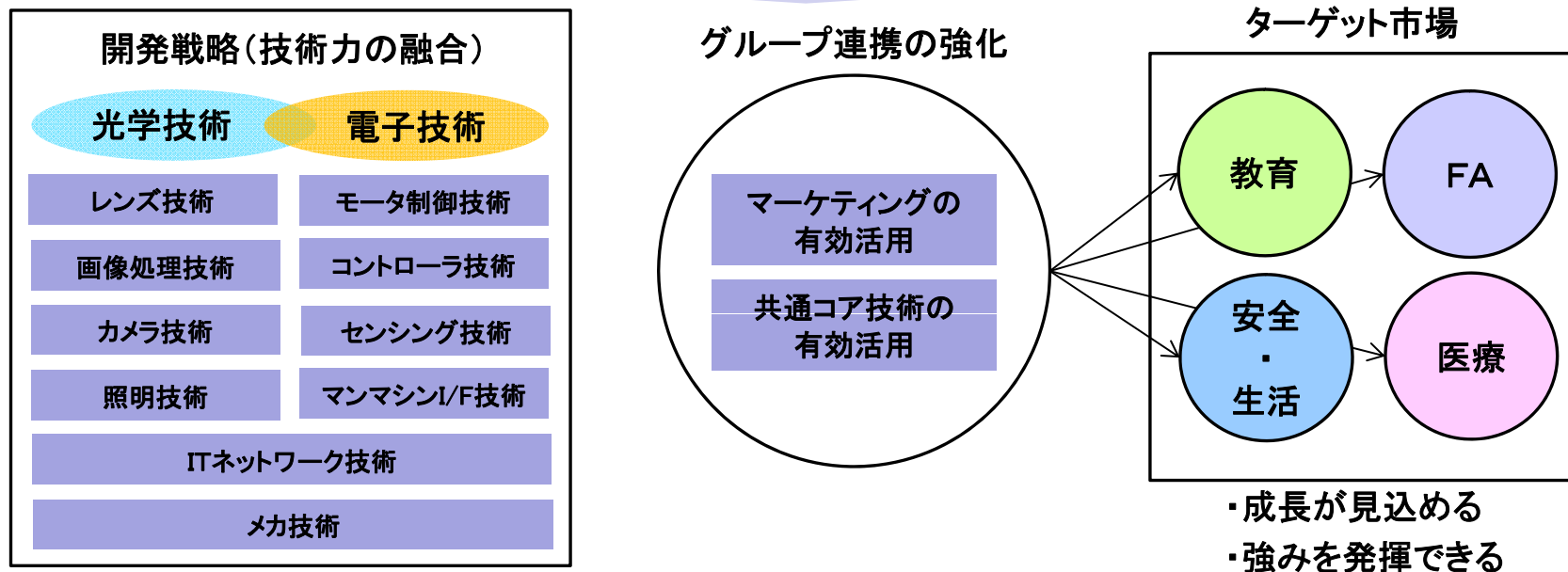


# 成長戦略

## テクノホライゾングループが目指す姿

ターゲット市場の絞り込み

4つの重点市場「教育」「FA」「医療」「安全・生活」



部分最適(子会社の個別活動)からグループ全体最適へ

# 成長戦略：「教育市場」

## ■ クラスルームソリューションのグローバル展開

(書画カメラを始めとした教育市場向けのラインナップを充実させる)



TX-1 (普及タイプ)



P10HD (上位タイプ)



MX-1 (モバイルタイプ)



電子黒板



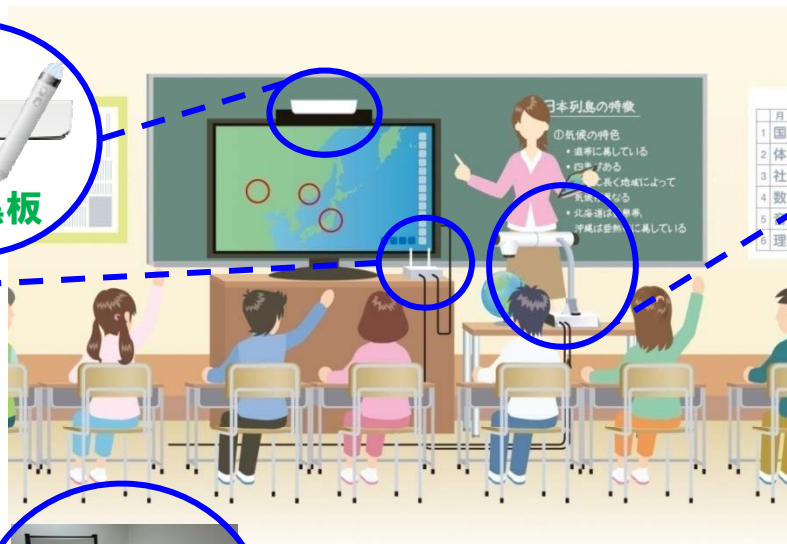
無線アクセス  
ポイント



ペンタクラス








ハードスペース



書画カメラ

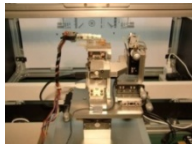
アクティブ・ラーニング(AL)機器へ推進



製品名	説明
<b>書画カメラ</b> 	<p>「実物投影機」とも呼ばれ、書類や立体物をテレビモニターやプロジェクターを介して、そのまま画像でリアルタイムに映し出す映像入力機器です。拡大縮小が自在に行え、最近では、簡単に使えるICT機器の一つとして、小・中学校の授業での活用へと需要が広がっています。</p>
<b>電子黒板</b> 	<p>パソコン上の画像や書画カメラの映像をプロジェクターの投射面やディスプレイに映し出し、大画面上で直接、画面を操作し、文字や絵を書き込んだり、拡大・縮小、保存等ができる映像機器です。</p>
<b>ハドルスペース</b> 	<p>現在、高等教育市場を中心に「アクティブ・ラーニング(AL)」が進んでおり、ALの一つであるグループワークを最適化するコラボレーションツールとしてハドルスペース(HS)を2016年12月から発売します。HSは複数のHDMI入力と出力を有し自席からボタン一つで簡単に自画面に切り替えられます。これにより発表がスムーズになり、グループワークが活発になります。</p>
<b>無線アクセスポイント</b> 	<p>学校などの教室で、配線なしでモバイル書画カメラや複数のタブレットを同時に使うことができるようにする無線アクセスポイントです。 (愛称: つながるもん)</p>
<b>ペンタクラス</b> 	<p>会議室等で後からでも簡単に設置できるマイク・スピーカーシステムです。最新のオーディオテクノロジーと独自のアコースティックをフルに活用し、高品質+360度全方向性均一レベルのオーディオを醸し出すことが可能で、会議室や教室などの声がいきとどかない場合に便利です。(現在は米国市場向けのための取扱いとなっております。)</p>

# 成長戦略：「FA市場」

- ロボットコントローラ及び多軸ユニットのラインナップ強化・  
拡販による国内外のシェア拡大
- 画像装置の育成及びシステム事業の育成



アライメント(位置調整)  
装置



3D計測用  
プロジェクター



ビームエキス  
パンパー



工場ITシステム構築支援サービス



カメラモジュール  
製造・検査装置







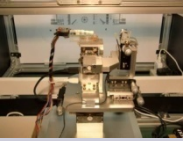

ロボット  
コントローラ



I/Fボード



画像処理カメラ

製品名	説明
<b>ロボット コントローラ</b> 	<p>産業用ロボット(スカルロボット及び垂直多関節ロボット)に対応したサーボドライバー一体化型のロボットコントローラです。モーション制御機能(モータによる位置制御等、産業用ロボットにおいて中核となる機能)やI/O制御機能(コンピュータへのデータ入出力操作機能)を搭載し、自動制御を可能としております。また、省スペース/省エネ/低価格を実現しています。</p>
<b>カメラモジュール 製造・検査装置</b> 	<p>スマートフォンを始めとした携帯電話のカメラについて、正確に検査する装置です。</p>
<b>3D計測用 プロジェクター</b> 	<p>近年、部品の小型化や工場のオートメーション化が進み、人による目視や検査等が難しくなっており、ロボットが使用されることが増えています。これらに対応すべく、ロボットの目の代わりになる装置です。</p>
<b>画像処理カメラ及び I/Fボード</b> 	<p>生産ラインで製品を自動認識する画像処理カメラは、用途に応じ機能追加も可能です。またI/Fボードは生産ライン用の高速データ記録・再生するボードです。</p>
<b>アライメント (位置調整)装置</b> 	<p>自社開発した「高精度カメラモジュール組立装置SAA-5000」を用い、監視カメラ及び車載分野向けに、従来より高精度かつ高信頼性、そしてトータルコスト削減が実現可能なカメラモジュールの組立受託サービスを提供しています。</p>
<b>工場ITシステム構築支援 サービス</b> 	<p>生産、販売、購買、会計、人事等会社の部署それぞれが管理しているデータを一元管理する「統合型基幹システム(ERP)」、生産管理、グループウェア等の社内ITシステムの導入を支援しています。</p>

# 成長戦略：「医療市場」

- 医療機器技術を提供しEMSで業績拡大を図る
- 画像、光学、電子技術の強みを活かす



インピーダンス  
心拍出量モニタ



組織酸素  
代謝モニタ



生体モニタ



喉頭鏡

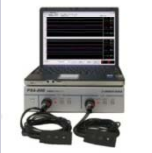



医療ファイバースコープ  
光源ユニット



エコー画像  
記録装置






製品名	説明
<b>組織酸素代謝 モニター</b> 	<p>近赤外線技術を応用した動脈血のなかにどの程度の酸素が含まれているかを測る装置です。</p>
<b>インピーダンス 心拍出量モニター</b> 	<p>カテーテルを挿入することなく患者の身体上面に張り付けた電極を通じて血液の流れを測定する装置です。</p>
<b>医療ファイバー スコープ 光源ユニット</b> 	<p>プロジェクター用光学エンジンの技術を応用した医療用内視鏡の光源ユニットです。赤、緑、青の3色の高輝度LEDを組み合わせた事による高い白色光が特徴で、様々な環境で使用される内視鏡カメラなどに最適な照明を提供いたします。</p>
<b>喉頭鏡</b> 	<p>喉頭を観察するために使用される器具です。</p>
<b>生体モニター</b> 	<p>手術中や入院中の患者のベット横に設置し、患者の状態(心電図等)を監視する装置です。</p>
<b>エコー画像 記録装置</b> 	<p>超音波診断装置の映像記録を高画質で録画する装置です。妊婦さんのお腹の中の赤ちゃんの映像がリモコンのボタン一つで、USBメモリに簡単に高画質で録画できます。</p>

## 成長戦略：「安全・生活市場」（自動車用途）

- 自動車運転支援・自動車安全装置の育成
- デジタコ・バックモニター一体型ドライブレコーダーなど運輸市場の業務改善のための新商品の開発



製品名	説明
<p><b>モバイルペイメント 対応マルチ 決済端末</b></p> 	<p>QRコードやNFCカード(近距離無線通信)に対応した新しい決済・ポイントサービス用マルチ決済端末FP-1は、QRコードスキャナ、カラー液晶、オートカットプリンタを搭載し、QRコードの読取りから利用明細の印刷まで、店頭での円滑でスピーディな処理を実現し、訪日外国人旅行客の決済にも対応可能です。</p>
<p><b>安全運転支援 装置研究向け 映像ロガー</b></p> 	<p>車載カメラを使った自動運転や先進運転支援装置の研究開発やデモンストラーションに使う映像ソースの記録・再生装置です。</p>
<p><b>ドライブレコーダ</b></p> 	<p>事業用に特化し、各種外部機器との連携を可能なドライブレコーダです。バックやウinker信号の連携だけでなく、デジタルタコグラフとの連携によりこれまでの「事故録画」から、より安全な運転をサポートします。</p>
<p><b>MFIB(マルチ・ファンクション・ インターフェース・ボックス)</b></p> 	<p>あらゆる業務用車載機器(デジタルタコグラフ、ポイント・決済端末等)に連動することで、業務用車輛を効率的に活動させるインターフェースボックスです。</p>
<p><b>バックモニター一体型 ドライブレコーダ</b></p> 	<p>車輛の情報(現在位置、事故状況、危険運転等)をリアルタイムに把握し、映像情報・音声録音と連携させ、リスクを可視化、分析する事で車輛の正しい行動チェック、安全・エコ運転などの推進に役立ちます。トラック・バス・集じん車などバックミラーで後方視界が見られない車輛に有効です。</p>
<p><b>自動車用 ヘッドアップ ディスプレイ・ メーター用 リアプロジェクター</b></p> 	<p>ダッシュボードに組み込み射出映像を、運転席のフロントウィンドに反射させて運転情報を映し出します。ドライバは、フロントウィンドを介して、前方の風景も見られ、少ない視線移動で運転情報を得ることが可能です。</p>

# 成長戦略：「安全・生活市場」（セキュリティ用途）

- SNS、IoTなど時代にマッチした新しい映像をご提案
- 監視等用途に合わせた最適なカメラ・映像システムの開発





製品名	説明
<b>監視カメラ用レンズ</b> 	<p>185° の超広角レンズや12倍、30倍ズームレンズ、4Kの超高精細対応レンズなど最先端のレンズ技術をお客様のニーズに合わせて提供しております。</p>
<b>IPカメラドアホン</b> 	<p>インターネット回線を利用した集合住宅向けインターフォンシステムです。10.1インチの大型液晶で見やすく、タッチパネルで簡単な操作が可能です。インターネット回線により、集中管理や遠隔地での対応が可能です。</p>
<b>列車用 ネットワークカメラ</b> 	<p>新興国では鉄道等のインフラ整備が進んでおり、列車内のセキュリティの関心も高まっております。低温から高温まで強い耐環境特性を持つ高画質の列車用のネットワークカメラです。</p>
<b>フィールドカメラ</b> 	<p>独自の光学技術と映像処理技術を活かした高性能・高感度かつ多目的利用可能なムービーカメラ。パーソナルなスポーツカメラとしてだけでなく小型・防水・高性能な業務用ムービーカメラとして現場作業録画、動作検証記録等にも活躍しています。</p>
<b>パノラマカメラ</b> 	<p>最大画角185° の超広角レンズを搭載し、簡単に上下180° 左右360° のパノラマ動画を撮影するカメラシステム。高精細レンズにより全方位の高画質映像をお楽しみいただけます。</p>
<b>ホームセキュリティ クラウドカメラ</b> 	<p>小型・高性能カメラQBiC CLOUDシリーズの新製品。ご利用の簡便さはそのままに、カメラの基本性能を大幅に向上、屋内用として事務室やリビングなどの空間に設置しても親しみやすく、やさしいデザインを採用。スマホやパソコンからいつでも簡単に映像の確認が可能です。</p>

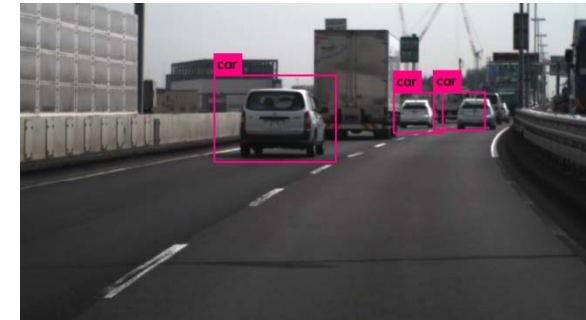
## 成長戦略：新規顧客の獲得・マーケティングの強化

開催日	開催場所	展示会名
2017年4月	東京ビッグサイト	光・レーザー技術展 Photonix 2017
2017年4月	ポートメッセ名古屋	機械要素技術展(M-Tech) 名古屋
2017年4月	東京ビッグサイト	MEDTEC Japan 2017
2017年5月	東京ビッグサイト	第8回教育ITソリューションEXPO
2017年6月	東京ビッグサイト	機械要素技術展(M-Tech) 東京
2017年10月	株式会社エルモ社	ELMOテクニカルソリューションフェア in 名古屋
2017年12月	パシフィコ横浜	国際画像機器展 2017
2017年12月	吹上ホール	第4回メディカルメッセ
2017年12月	科学技術館	ELMOテクニカルソリューションフェア in 東京
2018年1月(予定)	東京ビッグサイト	オートモーティブワールド2018
2018年2月(予定)	インテックス大阪	MEDIX関西2018

## 成長戦略 : トピックス

### AI 組み込みプラットフォーム『GT-X1・X2』発売 (2017/11/16)

NVIDIA社のAI(人工知能)スーパーコンピュータモジュール Jetson TX1 & TX2 に対応した組み込みプラットフォームです。ディープラーニングを用いたユーザーインターフェースの開発や検証、自律ロボット制御システム、各種画像処理システムに最適な組み込みプラットフォームです。今後は、顧客独自のカスタム要求や量産にも対応したシステムを構築し販売していきます。



### 株式会社ケーアイテクノロジーの全株式取得 (2017/11/1)

連結子会社であるタイテックは、画像処理関連のアルゴリズムの開発に強みのあるケーアイテクノロジーの全株式を取得しました。画像に関連した技術をグループ内に取り込むことで、同社の掲げる『ハードウェアとソフトウェアの親和性』をさらに高め、シナジー効果を発揮します。

## IR担当窓口

- 部署：テクノホライゾン・ホールディングス株式会社
- 役職：総務部長
- 氏名：加藤 靖博
- 電話：052-823-8551
- FAX：052-823-8560
- E-mail： [info@technohorizon.co.jp](mailto:info@technohorizon.co.jp)

## 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。